

■米ハイテク株集中相場が続く

足元における世界の株式市場は、米ハイテク株の独歩高となっており、ハイテク株比率の高いナスダック総合株価指数は5月以降、上昇が鮮明となっています(図表①)。米国にて高金利政策が維持される中、景気後退を懸念したグローバルマネーが、そうした局面においても業績拡大が見込める一部の米ハイテク株に集中している状況です。

一方、日本株は引続き上値の重い展開が続いています。金融政策を巡る不透明感や企業による保守的な業績見通しが、海外投資家の日本株離れに繋がったと考えられます。

■注目の日米金融政策決定会合を通過

注目されたFOMC(米連邦公開市場委員会)では、7会合連続となる政策金利の据え置きを決定しました。また、FOMC参加者による政策金利の見通しを発表し、2024年末時点で5.1%(中央値)と、3月のFOMCで示された見通しから上方修正しました(年内の利下げ予想は3回から1回へ修正)。

日銀の金融政策決定会合では、追加利上げを見送った一方、国債買い入れの減額方針を決定しました。ただ、具体的な減額計画については、市場参加者の意見を踏まえて次回7月の会合で決めるなど慎重に進める姿勢が示されたため、上記決定が伝わった後場の東京市場は株高で反応しました。

■積極的な株主還元が日本株を支える

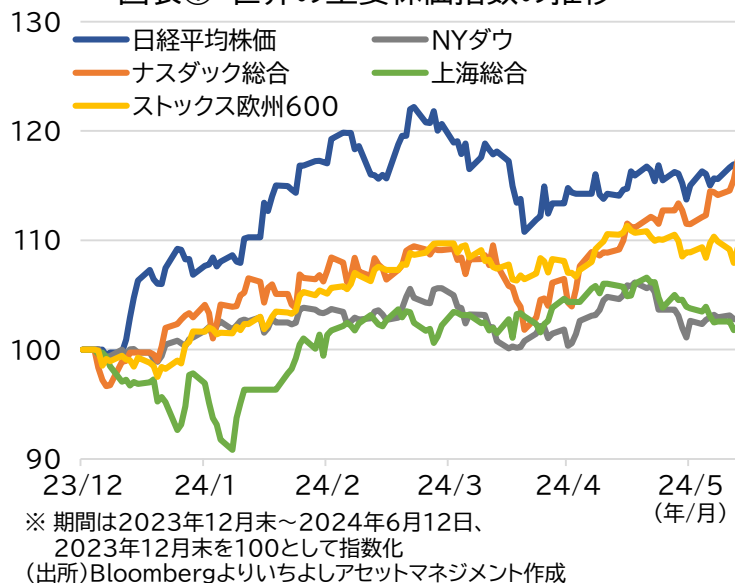
上値の重い展開が続く日本株ですが、一方で企業による積極的な株主還元が相場を下支えする構図に変化はありません。

図表②は、主な投資部門別の売買動向と日経平均株価の推移を表したグラフになりますが、自社株買いの動きを反映する事業法人の買い越しが継続、5月には最大の買い主体となることがお分かりいただけます。

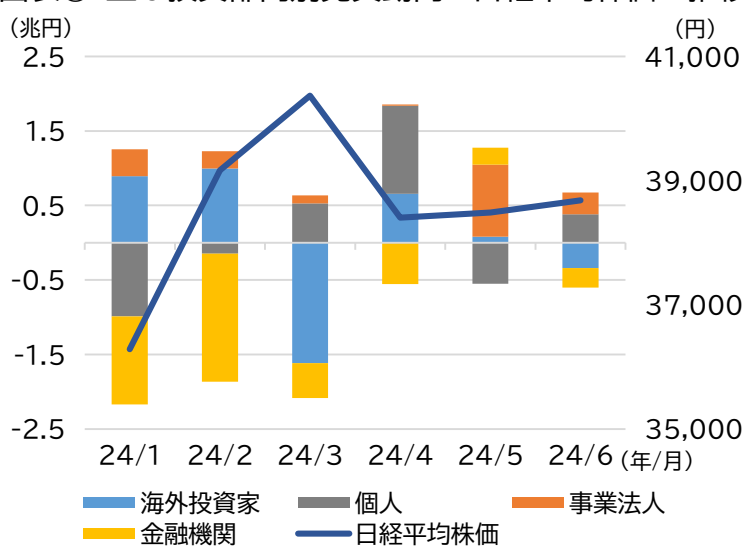
図表③は、TOPIX構成銘柄における自社株買い総額と配当総額を合計した総還元額の推移を、年度毎に表したグラフになります。業績拡大や東京証券取引所による資本効率改善要請を背景に、2024年3月期は過去最高を更新しています。

今後も株主還元をはじめとする企業価値向上への取組みが進展することで、日本株をサポートすると思われます。

図表①:世界の主要株価指数の推移



図表②:主な投資部門別売買動向と日経平均株価の推移



図表③:TOPIX構成銘柄における総還元額(自社株買い総額+配当総額)の推移

